

1 沖永良部地域を支える担い手の確保・育成(経営体・新規就農者)

【成果の要約】

- 1 担い手の経営発展支援として、研修会の開催及び個別相談会を開催し、法人化を含めた経営発展のための意識向上が図られた。
- 2 与論町において、円滑な複式簿記の推進を図るため関係機関と連携し、JA 自動仕訳システムの導入体制が確立した。
- 3 重点指導対象を選定し、技術・経営分析診断等によりモデルとなる担い手の育成を行った。
- 4 新たに4戸が家族経営協定を締結した。
- 5 新規就農者に対し、励ましの会や基礎講座、部門別研修等を開催し、基本的な知識の理解促進と改善意欲の向上が図られた。

1 対象

(連携) 各町、各JA、花き農協、法人志向農家12戸、パソコン簿記記帳対象農家102戸、担い手確保・育成普及活動対象農家18戸、家族経営協定締結農家86戸、
(連携) 沖永良部・与論指導農業士会、新規就農者50人【R元～R5】

2 課題を取り上げた理由

- (1) 各町担い手総合支援協議会との十分な連携による担い手の確保・育成の推進体制を強化し、かごしま地域営農・就農支援センターを活用した専門家派遣を行う必要がある。
- (2) 経営改善に必要な補助事業や制度資金、農地中間管理事業等の活用、複式簿記記帳の推進や技術・経営診断の実施、家族経営協定の推進等を行い、各町基本構想に掲げる農業所得を確保できる経営体を育成する必要がある。
- (3) 新規就農者の定着に向けて関係機関・団体や指導農業士と連携した支援が必要である。
- (4) 認定新規就農者が活用できる制度資金等や各種施策を活用し、早期経営確立に向けた支援が必要である。

3 活動内容と成果

- (1) 担い手の経営安定支援

ア 担い手支援体制の整備

8月に3町合同の担い手担当者会を開催し、担い手の現状や支援内容の検討、新規就農者の育成確保について提案を行い、情報や課題の共有が図られた。

イ 担い手の経営発展支援

(ア) 若手農家等への法人化・経営発展支援

農業経営の法人化を目指す3農家を対象に、県の派遣税理士の派遣、経営診断を基にした法人化のタイミングやメリット、円滑な経営継承に向けた法人化の意義についての助言・指導を支援した。その後、農業青年クラブ員を中心とした農業法人化および経営継承に関する研修会を開催し、法人化を目指す農家の育成が進められた。



(イ) 法人等への支援

鹿児島農業経営・就農支援センターと連携し、農業法人での「社会保険（健康保険、厚生年金、労災、雇用保険）の手続き等」、6次化での「加工品の販路の確保と販売戦略等」について、それぞれのスペシャリスト派遣支援により、改善が図られた。

(ウ) 複式簿記記帳及び経営基礎研修

与論町において、JA自動仕訳システムを活用した簿記記帳の体制が確立された。

基礎研修会を開催し、経営改善に向けてパソコンによる複式簿記のメリットや経営把握に必要であること等の助言指導を行った。

(エ) 経営計画等作成支援

経営改善計画及び資金計画の作成を支援し、青年等就農資金等及びその他制度資金による経営改善へ向けた支援を行った。



(2) モデル担い手の育成

重点指導対象を選定し、経営改善目標の設定、実績をもとにした要因分析を行った、技術及び経営上の課題解決に向けた改善方策等の検討を行い、技術・経営両面で支援を行うことで、モデル農家の経営改善が図られつつある。

(3) 家族経営協定推進

ア 家族経営協定締結支援

与論町の畜産農家3戸（親子1戸、夫婦2戸）、和泊町のさとうきび農家1戸（兄弟）に対して、各町と連携して協定内容等について支援を行い、締結に至った。



家族経営協定調印式

(4) 新規就農者支援

ア 経営確立への支援

新規就農者励ましの会や新規就農者基礎講座、部門別研修の開催や巡回指導等により、関係機関・団体、指導農業士と連携して経営確立へ向けた支援を行った。

イ 就農希望者への助言

就農相談時の支援体制や関係機関・団体の情報共有について検討を行い、就農相談カードの地域版を作成し、就農支援相談の連携・強化を図った。



新規就農者励ましの会

また、就農前後に必要な情報について、新規就農者にアンケートを行い、活用できる資料として整理した。

4 今後の課題

- (1) 各町担い手協議会と連携した担い手・新規就農者の確保育成
- (2) 担い手確保・育成普及活動対象農家の技術・経営分析・診断による経営改善
- (3) 個別課題に応じた家族経営協定の推進
- (4) 新規就農者の安定定着へ向けた支援、指導農業士と連携した支援活動の充実

5 担当した普及職員（○印はチーフ）

○折田、大久保、岩崎、松田、満吉、水迫、肥後

2 沖永良部地域を支える担い手の確保・育成(青年農業者・女性農業者)

【成果の要約】

- 1 青年農業者2人が個人プロジェクトを完成し、地区青年農業者会議で発表した。
- 2 各町青年農業者クラブが地区青年農業者会議で共同プロジェクトの発表を行った。
- 3 新たに青年農業士1人と女性農業経営士1人が認定された。
- 4 女性農業者を対象に研修会や先進地研修を行い、農地の活用法や飼養管理技術等の資質向上が図られた。

1 対象

和泊町農業青年クラブ11人、知名町農業青年クラブ15人、与論町農業自営者クラブ18人、女性農業経営士及びはるあぐの会25人、和泊町スマイル&フレッシュ14人、よろん和牛女子12人

2 課題を取り上げた理由

- (1) 青年農業者の自主的なプロジェクト活動を支援し、栽培管理・経営管理技術の向上を図る。また、現地就農トレーナー（指導農業士）等とも連携した栽培管理・経営管理技術の習得を支援する。
- (2) 関係機関・団体との役割分担を明確にし、クラブ活動の運営支援を充実する。
- (3) 女性農業者組織については、はるあぐの会と連携し、若手を含む地域女性農業者組織（和泊町スマイル&フレッシュ、よろん和牛女子等）活動支援により、新たな女性リーダーとなる女性農業経営士を育成する。

3 活動内容と成果

- (1) 青年農業者の育成

ア 課題解決能力向上支援

青年クラブのプロジェクト活動と併せて個人プロジェクトの課題設定を行い、経営改善に向けたプロジェクトの支援を行った。地区青年農業者会議においては、個人プロジェクト2名、意見発表2名、それぞれ発表した。



地区青年農業者会議

- (2) 各町青年クラブ自主的活動支援

ア 共同プロジェクト実施支援

和泊町はアセロラ、さつまいもを栽培し、アセロラはお茶の商品開発、さつまいもは農業祭での販売等に取り組み、クラブ活動の意義を深めている。

知名町は、ライチ・とうがらしを栽培し、とうがらしは産業祭で販売した。また、新たなイベント等で企画等行い仲間づくりを支援している。

与論町は、新役員体制で意思統一を図りながら、イチゴの栽培に取り組み、品種比較や先進地研修で技術の習得・蓄積をした。



農業祭で「さつまいも」販売

(3) 女性農業者育成支援

ア 女性リーダー育成支援

(ア) 各町農政担当課，はるあぐの会と連携し，スマイル&フレッシュ役員，知名町女性の会，よろん和牛女子等から女性農業経営士候補者をリストアップし，養成研修への参加を働きかけた結果，1人が女性農業経営士に認定（与論町：叶氏）された。叶氏は，今後栽培技術を向上し，季節毎の野菜の苗作りに取り組みたいと目標を持っている。

(イ) はるあぐの会と農業普及課の共催で女性農業委員・農地利用最適化推進委員・新規就農者，スマイル&フレッシュ会員など21人で農地の有効活用等研修会を開催し，情報交換等を行い，新たなネットワークづくりにつながった。

イ 若手農業者活動支援

(ア) スマイル&フレッシュは母の日前日にフラワーアレンジ体験を開催し大盛況となった。イベントの成功で，組織活動の活性化が見られ，今後もイベント継続の気運が高まっている。

(イ) よろん和牛女子は総会や母牛登録検査等の機会に技術研修会を開催するよう努めた。我が家の経営発展のため先進地研修（さつま町，霧島市）に5人の参加があり，購買者や一貫経営の飼養管理について研修した。会員は同じ年齢層で構成されている為，まとまりがあり，組織活動は円滑である。



よろん和牛女子先進地研修



「スマイル&フレッシュ」
フラワーアレンジ体験



聞きたいこと聞いて
ほしいこと交流会

4 今後の課題

- (1) 個別プロジェクトについては，我が家の農業経営の十分な現状把握ができるよう支援する。
- (2) 農業青年クラブ活動が我が家の課題解決につながるよう内容等検討する。
- (3) 若手女性農業者の我が家の農業経営や地域活動への参画が進むよう，今後は，年齢に幅があることを活かして，先輩から後輩へいろいろな知識・技術・情報提供ができる機会づくりを支援する必要がある。
- (4) 資材高騰や労働力不足等の課題に対応できるよう，引き続き女性農業者の経営管理・栽培管理技術能力の向上による所得向上へ向けた支援が必要である。

5 担当した普及職員（○印はチーフ）

○岩崎，大久保，折田，松田，満吉，市来